

水俣の歴史と風景

江戸～明治～大正～昭和



水俣の歴史と風景



はじめに

熊本県水俣市は熊本県最南端で、鹿児島出水市と接している小さな町です。明治時代は塩田やハゼ栽培、漁業が主な産業だった町に、カーバイト工場(のちの日窒(にっちつ)-新日窒-チツソ-JNC)が誘致されたため、急速に発展しました。チツソ城下町と云われた水俣の歴史は日窒(チツソ)の歴史を抜きには語れません。(ここでは社名をチツソで統一します)

水俣では「会社」といえばチツソのことでした。チツソの従業員(現場)のことは「会社行き」といい、管理職の人は「社員」と言っていました。それぐらい水俣では会社=チツソでした。

阿久根脇本で生まれた父は小学校低学年の頃、漁師をやっていた祖父がチツソに勤めるために祖母兄弟と一緒に水俣に移住しました。父も学校を卒業したあと炭鉱に行きましたがその後チツソに就職し、途中戦争に行き帰還後から定年までチツソに勤めていました。(平成 28 年没)

私は昭和24年に水俣市山手町に生まれ、二小、二中、三中、工業高校と進み、10 年ほど名古屋に出たあと、水俣に帰り7 年ほど実家で住んでいましたが、その後会社のある出水市に移り、30 年ほど前に、出水麓武家屋敷群がある麓町に家を建てて住んでいます。17~8 年前には年をとった両親を出水の家によんで暮らしていましたが、両親とも今は亡くなりました。両親の部屋に残されていた父の遺品の中に、たくさんの写真や本などがありましたが、その中で水俣の歴史をまとめた「新水俣市史 上・下」と「水俣民衆史 全5巻」がありました。時々目を通していましたが、水俣生まれでありながら知らないことばかりで、非常に興味を惹かれました。ただ、あまりにもボリュームがあり全巻読むのはかなりの労力が必要です。

そこで、この両誌から水俣の大まかな歴史を当時の写真とともにまとめてみました。ふるさと水俣のなつかしい風景がいっぱいです。昭和30年代にはチツソの工場排水が原因による水俣病が発生しました。水俣の発展に大きく貢献してきたチツソですが、残念なことに負の遺産も生み出す結果となりました。ただこの冊子では水俣の風景を中心に集めましたので、水俣病に関しては特に記載しませんでした。

第 6 版

令和 4 年 9 月 25 日

作成 西濱 義昭

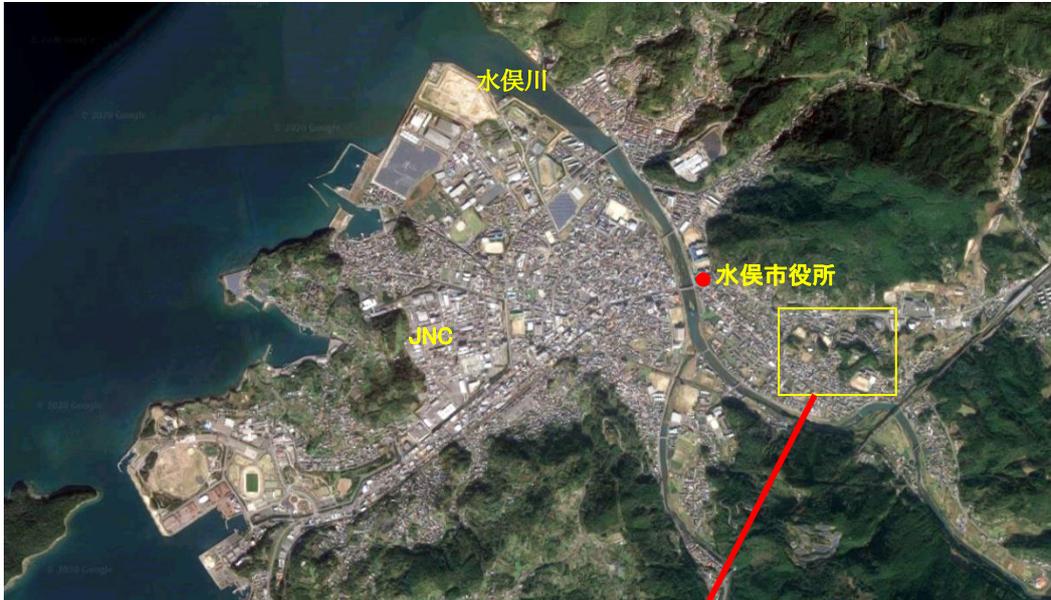
出水市麓町26-22

mail ynnnet@kyusyu.me

中世～

水俣城

水俣市中心の古城1丁目にある標高約30mの独立した丘陵に位置する。城域は古城と高城に分かれ、本城にあたる古城からは石垣や瓦の破片が出土したが、南東に続く小山の高城では遺構は確認されていない。1978年に水俣市が城跡に運動公園を造成し、地下から石垣が検出された。



水俣城 古城



水俣城 高城



西南戦争 官軍の墓



西南戦争 薩軍慰霊碑

水俣城の歴史

水俣を本拠として葦北郡を治める水俣氏がかつて城主を務めており、至徳2年2月4日(1385年3月23日)の今川了俊の書状に城名が記されているのが当城の最も古い記録である。やがて本郷氏が入った後、南北朝時代から葦北へ進出を図っていた相良氏が長禄4年(1460年)に水俣を支配下に入れた。大永4年(1524年)には相良長定が幼い相良長祇を人吉から追い、当城の裏山で長祇は自殺している。

弘治3年(1557年)に水俣城主の上村頼興が死ぬと、息子の上村頼孝らは相良義陽に反乱を起こした。水俣城を与えるという条件で頼孝は帰参したが、義陽により謀殺されている。永禄2年(1559年)5月21日、頼孝の叛乱に与し関係の悪化していた菱刈氏により落城させられているが、翌3年(1560年)に天草の上津浦氏が仲介となり、相良側より水俣内の12の屋敷を菱刈氏に割譲することで、7月3日に城を譲渡させている(『八代日記』)。天正年間に入ると隣接する島津義弘との対立が始まり、海陸から攻撃が加えられた。天正9年(1581年)には島津勢が大軍で水俣城を囲み、城主の犬童頼安が籠城したが、義陽は葦北郡を島津氏に割譲して降伏し水俣城から撤収した。

島津氏は古墻大炊大夫を地頭とし、当城に置いた。九州征伐後は葦北郡は豊臣秀吉の直轄領となり、天正15年(1587年)に深水長智を当地の代官および水俣城・津奈木城の城代に任命した。その後、相良氏や寺沢広高が城代を務め、慶長3年(1598年)に寺沢領となった。翌慶長4年(1599年)に小西行長、さらに同5年(1600年)には加藤清正領となっている。清正は中村正師を城代にしたが、慶長17年(1612年)に江戸幕府の命で宇土城、愛藤寺城とともに破却された。

出典 - Wikipedia



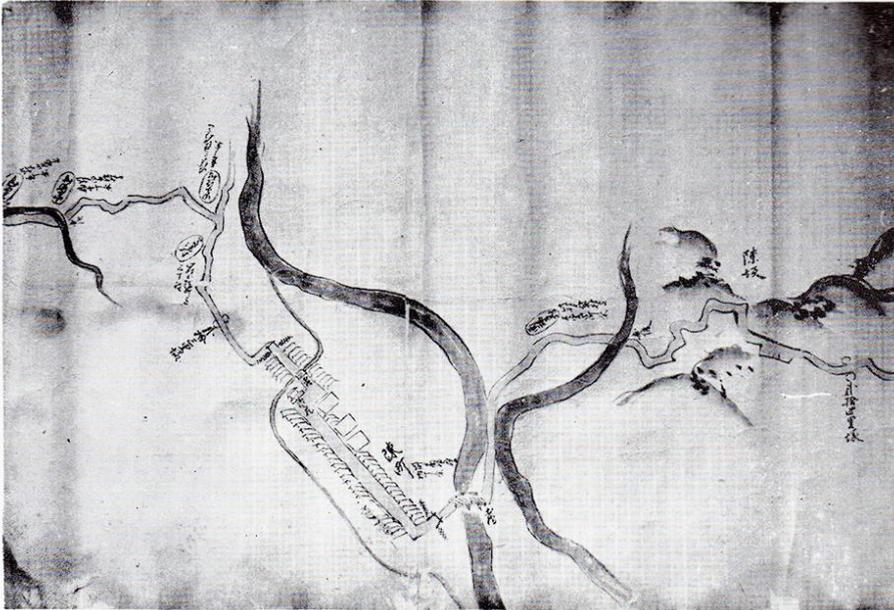
水俣城 古城



水俣城 高城

江戸時代

江戸中期の水俣地区 (島原文庫)



手永制度(てながせいど)

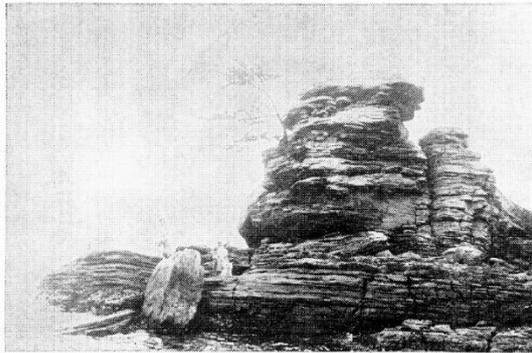
藩内を●●手永という小区画に分割し、それぞれの手永に会所(かいしょ)という役所を置き、管轄する最高責任者として惣庄屋(そうじょうや)を置いた。

この手永は、現在の郡や村の中間に当たるもので、細川氏が小倉藩時代から行っていた制度を、肥後藩内にも適用したものである。

(3版で追加)

江戸年表	水俣	全国
寛永年(1632年)	5月 幕府は熊本城主加藤忠弘を改易、10月細川忠利を小倉より熊本に移す。	
寛永10年(1632年)	水俣村戸数 428戸 人口 3,587人 石高 790石。	
寛永11年(1634年)	細川藩、手永制度創設。水俣手永は陣内、浜、江添、深川、薄原、大迫、袋の七庄屋村と41の小村で構成。	
寛永13年(1636年)	芦北群飢饉。津奈木手永 989人の内飢餓百姓家族 263人。餓死者 125人。	
寛永14年(1634年)	10月 島原の乱起こる。水俣手永より地侍など参戦。 肥後大飢饉。	
寛文7年(1637年)	水俣手永、百間塘を築造水俣海辺馬力潟干潟、田畑 28町、塩田 17町 9反造成。	
延宝8年(1680年)	肥後大飢饉、餓死者多数。	
享保18年(1733年)	前年より肥後大飢饉、草の根まで食す。	
宝暦13年(1763年)	細川藩、蠟専売制を実施、以降ハゼの栽培面積急激に増大。	
寛政9年(1797年)	水俣手永、大廻塘を築造 塩田 19町 9反を新たに造成。	
享和2年(1802年)	細川藩主細川斉茲、御側御用製蠟所を設立。水俣手永でもハゼの栽培始まる。	
安政5年(1858年)	細川藩内ハゼ栽培面積 1,297町。ハゼ木 70万本。売上約 1万7千両。	
文久3年(1863年)	水俣手永戸数 1,652戸、人口約 6,648人。	
慶応3年(1867年)	大政奉還 1868年 明治に改元。	

恋路島伝説



恋路島の妻恋岩



現在の恋路島（エコパークから望む）
妻恋岩は裏側にあり見えない

天正12年(1584年)3月、竜造寺隆信が肥前島原の有馬義純を攻めたので、義純は島津に助けを求めた。島津義久は、弟家久を将として3000余騎で島原に向かわせた。薩軍の中に川上左京という武将がいた。27歳で妻を迎えたばかりであった。左京は袋の港から島原を目指して船出したが、見送る者は袋の海岸で別れを惜しんだ。左京の妻は別れ難く港の向こうに浮かぶ恋路島に渡り、石室を作り夫の帰りを待つことにした。

島原に無事着いた薩軍は、隆信の1万3000の大軍と戦ったが、家久の計略により薩軍は優勢となり、隆信を求めて敵陣に切り込んだ川上左京は、隆信のそばに駆け寄り見事隆信の首を刎ねた。このような手柄をたてて無事凱旋したが、待っているはずの妻は夫の帰りを待たずあの世に旅立っていた。左京は妻が夫を恋する一念で築いた石積みを抱きしめ、今は無き妻を恋い慕いながらその名を呼んで泣いたという。帰りを待ち積み上げた恋路島北部にある岩は妻恋岩と言われるようになった。恋路島という名称もこの伝承に元づくものと思われる。

※袋には棒踊りが伝わっているが、川上左京が袋の港から船出するとき、村人が励ましのため踊って見せたものだという事だ。

※川上左京物語は、徳富蘇峰の「近世日本国民史」に記載されている。他にもあるらしいが、この話はあくまで伝説にすぎないとも言われている。

水俣と一向宗



本願寺人吉別院 一向宗が禁止されていた人吉で解禁後の明治11年に初めてできた浄土真宗のお寺



薩摩部屋がある水俣 源光寺

人吉藩(相良氏)は、弘治元年(1555年)分国法「相良氏法度」に、一向宗(浄土真宗)の禁止を追加した。その要因としては、えびの市及び小林市を治めていた北原氏の人吉城攻めに原因があるのではないかとされている。北原氏はこの年人吉城に攻め入ったが、その際に一向宗伝道の根拠寺である清明寺(人吉市七字町)と関係しており、禁令に至った要因ではないかと云われている。

薩摩藩では16世紀中頃に弾圧が始まっていたが、慶長2年(1597年)に島津義弘が発した二十か条の置文によって一向宗が禁制となった。公式の禁止令は慶長6年(1601年)に出されている。慶長4年(1599年)日向国において庄内の乱が勃発、この首謀者である伊集院忠真の父・忠棟が熱心な一向宗徒という説があり、乱後に正式に一向宗が禁止されたのはこのためだと云われている。一揆や石山合戦の実情が伝えられ、一向宗が大名によって恐れられたことや、島津忠良などの武将にとって、忠を軽んじ妻帯肉食する一向宗が嫌悪の対象となっていたことなどが原因と考えられる。以後両藩に於いては約300年にわたり禁制が続けられた

浄土真宗門徒は講の組織を背景に、山中の洞穴などで法座といわれる集会を開いた。このような洞穴は戦後になって隠れ念仏洞と呼ばれるようになった。また抜け参りといって、藩境を超えて信仰の許されている藩の浄土真宗寺院に参詣することも行われた。水俣市にある浄土真宗本願寺派源光寺には、薩摩部屋というものが残されている。これは一向宗が禁止されていた薩摩(出水など)から密出国した一向宗門徒が、世間の目に触れないように身を隠して念仏をとらえた場所だという。

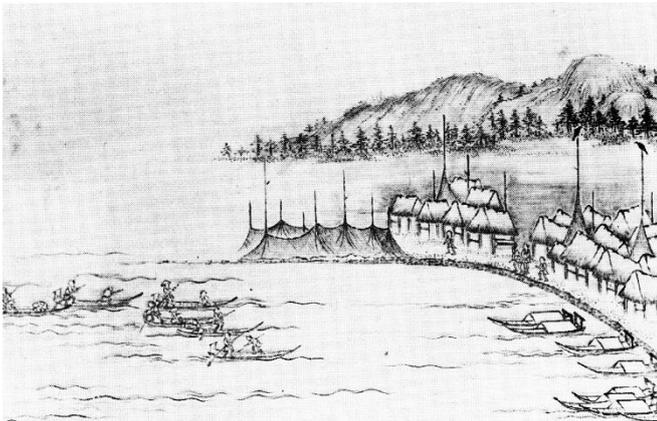
水俣のハゼ栽培



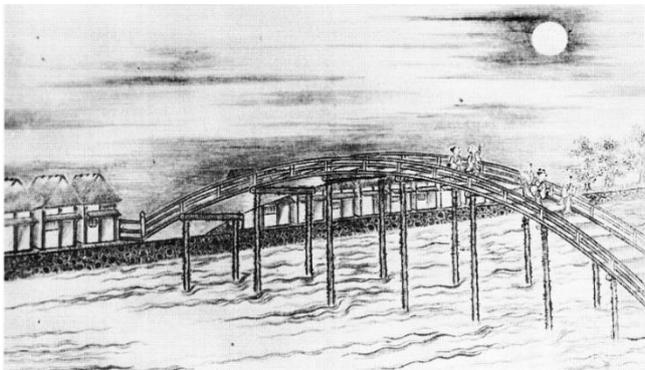
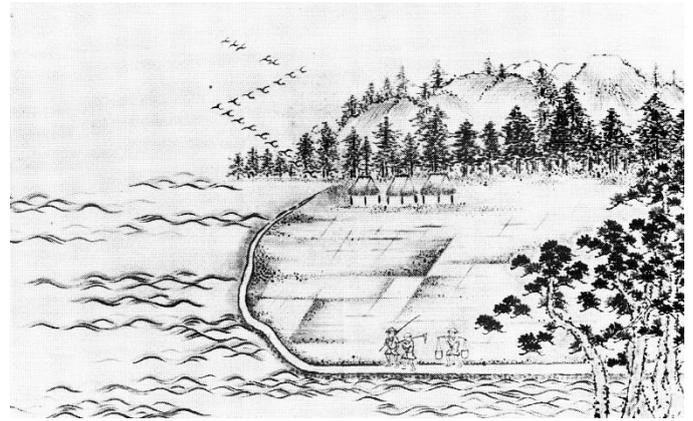
1700年代から財政状況が厳しかった細川藩では経済政策によりハゼの栽培が始まった。ハゼの実から抽出した木蠟（もくろう）は主にろうそくの原料となるものだが、1802年頃からは水俣でもハゼの栽培がはじまり、主要産業となっていた。現在でも侍地区には多くのハゼノ木があり栽培が続けられており、日本の30%は熊本産だということだが、そのほとんどは水俣産で、日本一のハゼ生産地となっている。現在侍地区には和ロウソク販売や体験もできる「侍街道はぜのき館」がある。侍という地名は侍が多く集まっていたからだと言われていたが、地元では「さむれ」「さむね」とも呼ばれている。



江戸時代の水俣風景



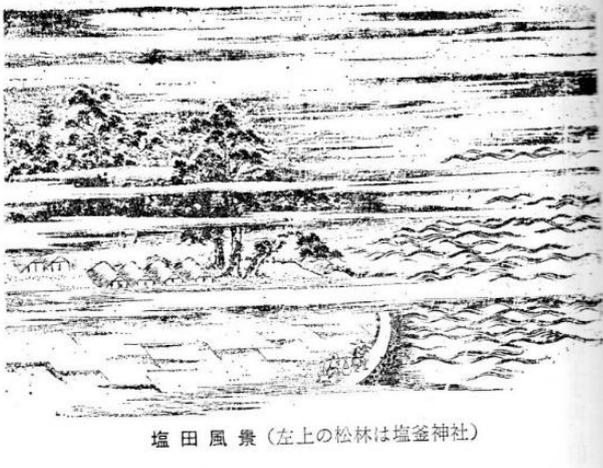
船津（現在の八幡）の港の様子。向こう側は大崎鼻。



現在の六角交差点あたりを流れていた古賀川にかかっていた永代橋

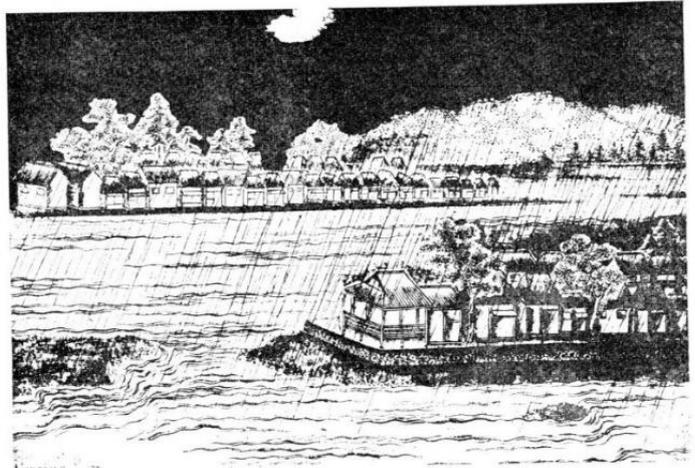
このあたりは水俣の中心街だった

江戸時代のロノ入



塩田風景（左上の松林は塩釜神社）

現在の塩浜グランドあたりは明治末期まで塩田だった。左の林は現在も残っている塩釜神社。中央の松は地名にもなった三本松。



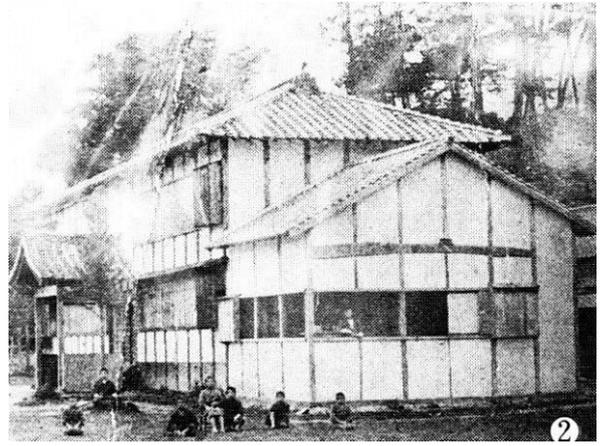
洲崎の夜の雨（中洲左端は徳富康喜氏宅、対岸は洗切）

中州であった浜町の先端、洲崎の様子。左は昭和7年の大規模河川改修まであった浅瀬が描かれている。向こう側は現在の八幡地区。

明治の水俣風景



明治 25 年頃の浜尋常小学校 創立は明治 8 年(現在の医療センター前)



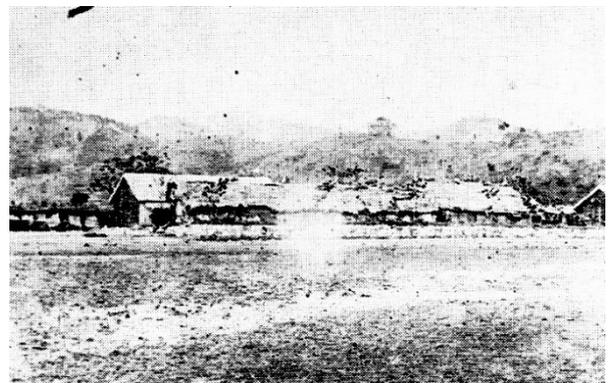
↑ 26 村で設立した高等芦北南部小学校。明治 28 年完成。(のちの水俣尋常高等小学校→水俣第一小学校)



← 尋常高等小学校に通えるのは、少数の有力者の娘だけだった。



明治 26 年頃 大園の女郎屋と女たち



明治の水俣村には赤痢などの伝染病が流行っていたため、患者を収容するため、明治 26 年に白浜に避(ひ)病院が建てられた。



明治時代、狐狸が村を歩いていた水俣村。川原から西側を写した明治期の小崎の写真。このあたりは「かんじんやぼ」と呼ばれていて、乞食たちの巣となっていた。

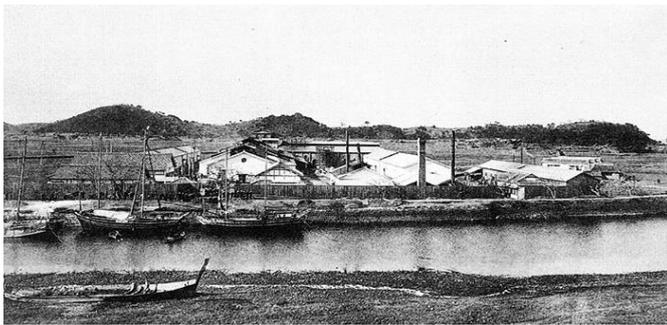


水俣村で店があるのは、城下町であった陣内だけだった。

水俣に工場が来る



野口遵(したがう)は明治 39 年に伊佐郡大口村に曾木電気株式会社を設立。第一発電所は洪水で流出したが明治 42 年には第二発電所が完成し大口、牛尾金山に電力を供給した。また水俣にカーバイト工場を作り、余剰電力を送った。その後カーバイト工場と曾木電気が合併し日本窒素肥料株式会社となり、日本の化学工業発展の礎となった。



明治 41 年操業を開始した日本カーバイト商会(社長野口遵)水俣工場 古賀川から望む(現在の白梅の杜付近) 曾木発電所から電力供給。

野口遵は、当初築港のある米ノ津(現在の出水市)に作る予定だったが、それを伝え聞いた水俣の前田永喜は誘致に乗り出し、曾木発電所からの送電距離が米ノ津より水俣の方が 8Km 長くなる分の電柱を寄付することや、敷地を安く提供したり、水俣には梅戸港などの良港があることを力説して必死の運動を続けた結果、野口遵も心を動かされて水俣に決定した。塩田やハゼ栽培の町だった水俣村を何とか発展させたいという前田永喜の熱意が感じられる。



日本カーバイト商会水俣工場 裏側



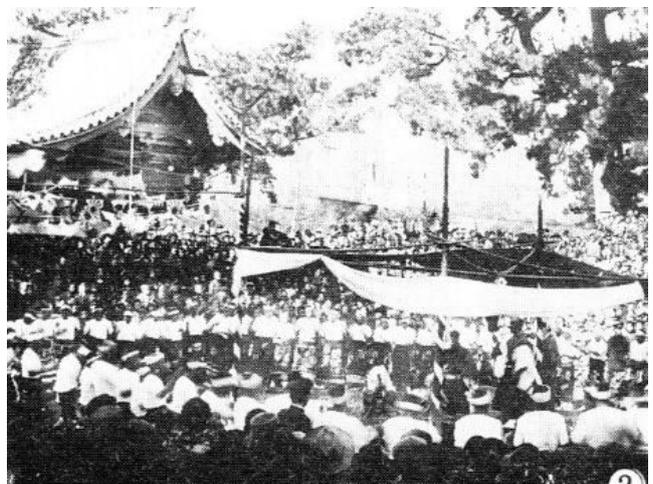
曾木第二発電所遠景



曾木第二発電所(写真上)は昭和 41 年 3 月、下流に鶴田ダムができると役目を終えた。現在は一部が遺構として残っていて、鶴田ダムの水位が下がった時全貌(下)を見ることができる。

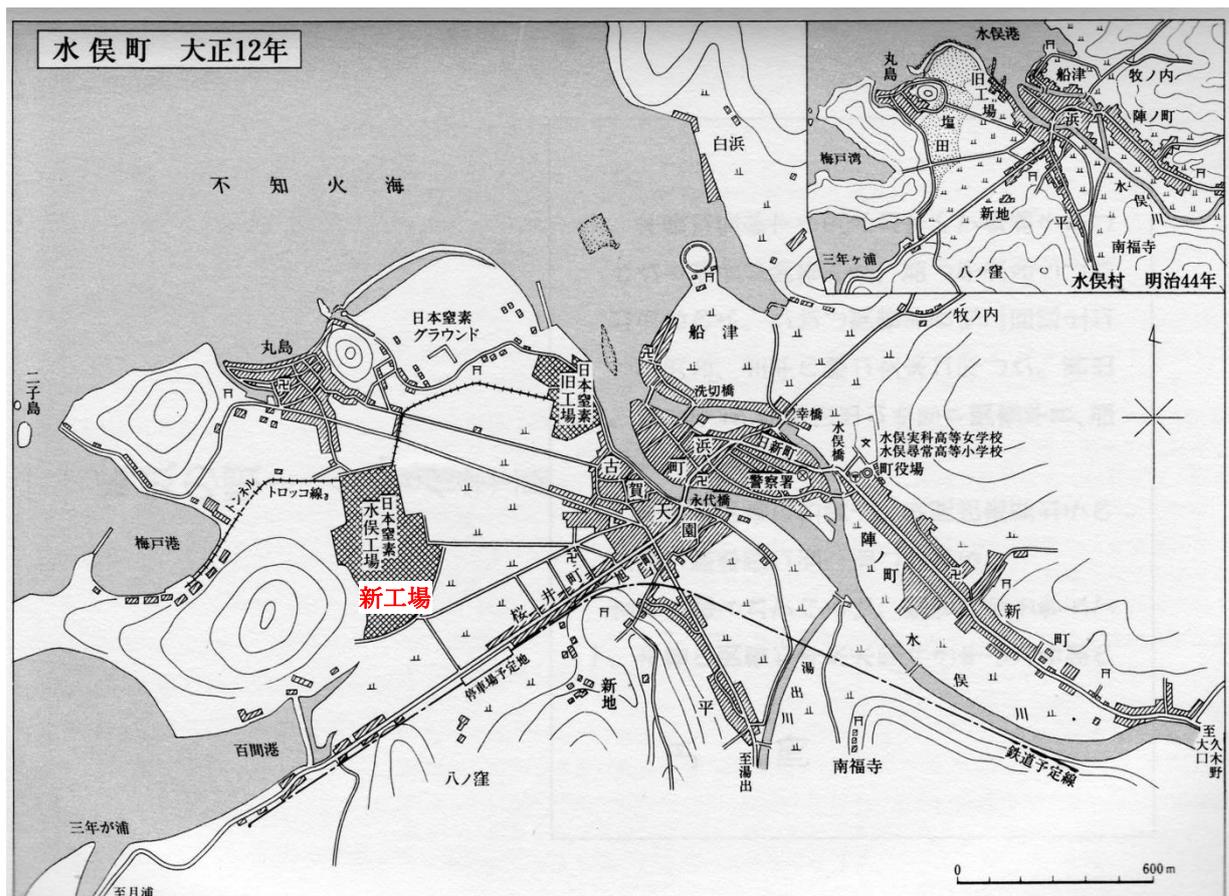


牛尾・大口金山全景 明治 41 年頃



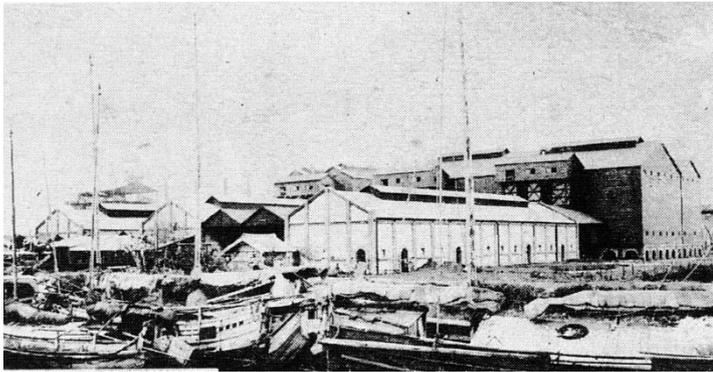
明治 44 年 八幡神社境内で行われた八幡祭の相撲大会の賑わい。大正 9 年には神社横の海を埋め立てて本格的な相撲場が作られた。(現 武道館)

大正時代

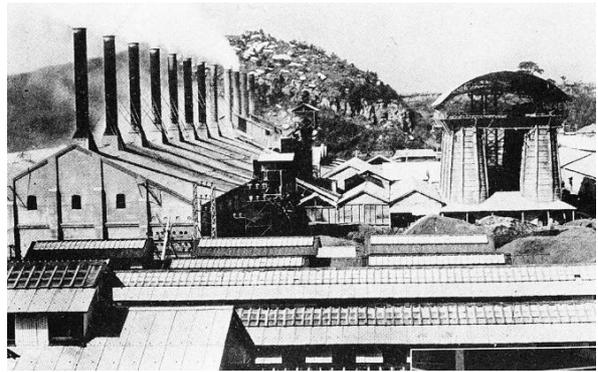


大正年表		
年	水俣	全国
大正 1 年(1912 年)	12/1 水俣町政施行	
大正 3 年(1914 年)	3 月 日窒旧水俣工場、石炭窒素製造を停止。装置と人員は鏡に移転、従業員 261 人に縮小。 11 月 日窒鏡工場完成。	1/12 桜島爆発 7/28 第一次世界大戦勃発
大正 4 年(1915 年)	日窒、内大臣川、川内川の発電所建設に着手。	
大正 5 年(1916 年)	4 月 日窒、緑川発電所の建設に着手。 9 月 日窒 水俣新工場建設に着手。	
大正 7 年(1918 年)	日窒新工場完成 従業員 2,000 人 (鏡工場 1,900 人)	
大正 9 年(1920 年)	八幡宮横の海を埋め立て相撲場が完成。 日窒附属病院開設 総合病院として市民にも開放。	
大正 12 年(1923)	日窒延岡工場完成 アンモニア硫安製造開始。 (のちの旭化成) 5 月から 7 月まで三回にわたり大洪水。	
大正 14 年(1925 年)	水俣湯の児温泉試掘成功。	
大正 15 年(1926 年)	朝鮮水電株式会社設立。赴戦江の水力発電に着手。 日窒水俣工場従業員 1,665 人。 7 月 肥薩海岸線 (鹿児島本線) 鉄道開通。	

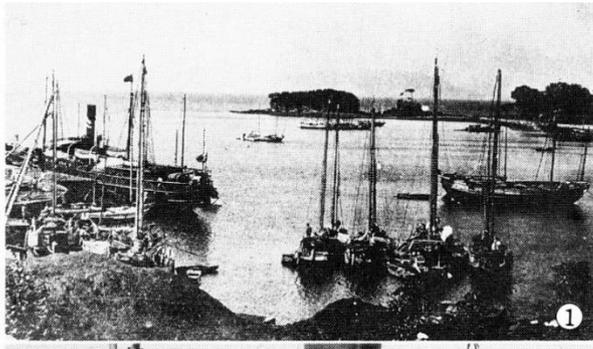
大正の水俣風景



大正3年 日窒鏡工場



大正7年日窒水俣新工場完成



大正7年梅戸港 上には二子島が見える。日窒の原料や製品の輸送用の港だった。



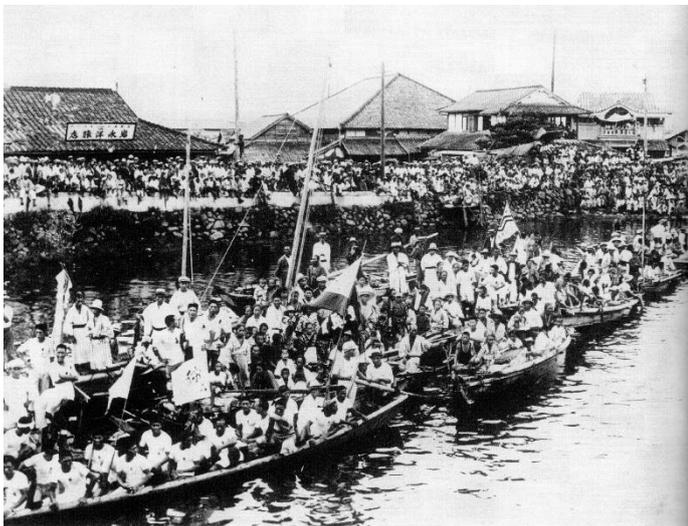
大正9年頃の浜町本通り。現在の谷川薬局あたりから幸橋方面。



大正時代の商店(自転車屋) 右側にはハラダ時計店の看板が見える。



大正時代 四つ角あたりの商店街の様子。T型フォードが見えるがタクシーとして使われていたと思われる。キクヤ薬局の看板がある。



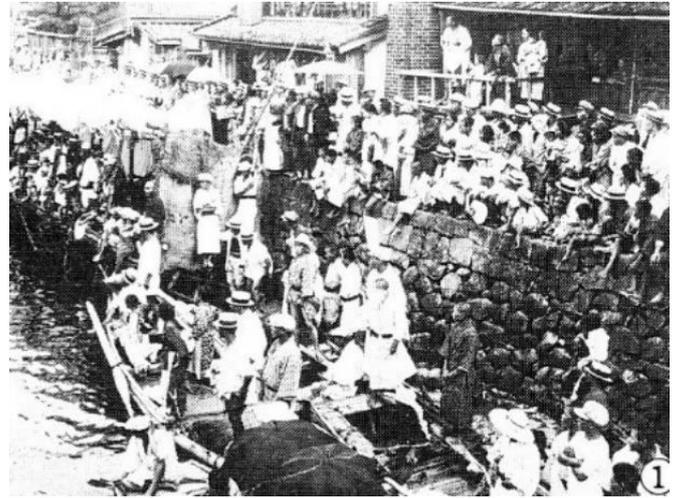
↑大正時代 永代橋での競舟(せりふね)の様子。大勢の観客で賑わっていた。上の写真の右側には梅崎製材所があった。左の建物は現在の君島タクシーあたり。

←古賀川下流から永代橋方面。左上の建物には岩木洋服店の看板がある。右上の建物は谷川旅館か。



開設当時の日室付属病院

大正9年 開設当時の日室付属病院。
水俣では初めての総合病院で日室従業員だけでなく市民にも利用されていた。昭和38年には市立病院も開設されたため、昭和44年6月末に閉院となった。私も中学生のころまで、病気になると母に連れられてよく診察を受けた。玄関に入って右側には待合室があり、左側に外来があった。廊下をまっすぐ進むと入院病棟となっていた。今も病院内のレトロな雰囲気は記憶に残っている。その後跡地はボーリング場になり、現在は水光社のホームセンター。



大正時代 永代橋付近での競舟見物の様子



浜町本通り



大正12年 大洪水の浜町

浜町は上の図のように川の中州となっていたため、頻りに大洪水に見舞われていた。そのため、昭和7年から9年にかけて川の流れを変える河川改修が行われることになる。



大正12年6月18日の洪水 (浜、仲ノ町)

仲ノ町 現在は飲み屋街となっている



↑大正15年 水俣駅での鹿兒島本線開通祝賀会の様子。念願の鉄道と駅が水俣にやってきた。

昭和時代

昭和年表		
年	水 俣	全 国
昭和元年(1926年)	12月 水光社新店舗完成。	
昭和2年(1927年)	5/2 日窒、朝鮮水電株式会社を設立。	
昭和3年(1928年)	4月 江添分校発足。(のちの二小)	
昭和4年(1929年)	ニューヨーク株式市場暴落 世界大恐慌に拡大。 朝鮮 興南工場一期工事完成。	
昭和5年(1930年)	水俣町失業者増加し、町立水俣職業紹介所開設。 12月 朝鮮 興南工場二期工事完成。	
昭和6年(1931年)	満州事変勃発。 12月 朝鮮 興南工場三期工事完成。	
昭和7年(1932年)	熊本県 失業対策事業として水俣川改修工事(工費54万円)、百間港修築工事(工費50万円)着工。	
昭和8年(1933年)	湯の児山上道路完成。(4Km)	日本国際連盟を脱退
昭和9年(1934年)	4月 山野線開通。(水俣一久木野) 4月 水俣川河川改修工事完成(地元人夫延べ9万人)。 引き続き河口20万平方メートルの海岸埋め立て。	
昭和10年(1935年)	水俣町地主 深水吉毅 町長になる。 百間港修築工事完成 水俣町戸数5,334戸 人口27,310人。	
昭和12年(1937年)	4月 水俣町営水道工事完成。供給戸数655戸。	7/7 日中戦争勃発
昭和13年(1938年)	山野線全線開通。(水俣一山野)	
昭和16年(1941年)	12/8 太平洋戦争へ突入。	
昭和20年(1945年)	8/15 太平洋戦争終戦。	
昭和22年(1947年)	新制中学校 1中 袋、葛渡、湯出 開校	
昭和23年(1948年)	女学校が新制高等学校として開校。(水俣高校)	
昭和24年(1949年)	4/1 水俣市制施行 人口42,270人。 4月 水光社新店舗営業開始(現在地)	
昭和25年(1950年)	日本窒素肥料株式会社は解散し、新日本窒素肥料株式会社が設立される。通称 新日窒(しんにっちつ) 12月 第二中学校落成。	
昭和26年(1951年)	2月 第一中学校増築完成。	
昭和28年(1953年)	水俣市立病院開院。(橋本彦七市長の発想)	
昭和31年(1956年)	5/1 水俣病公式発見。(付属病院細川院長による)	
昭和33年(1958年)	1/14 湯の児海岸道路完成。	
昭和35年(1960年)	3/24 市役所新庁舎完成。	
昭和36年(1961年)	4月 水俣高校内に県立水俣工業高校開校。 10月 水俣第三中学校開校。	
昭和37年(1962年)	7月 新日窒労働組合案賃闘争でスト突入。 昭和38年2月まで水俣全市を巻き込んだ労働争議となった。	
昭和40年(1965年)	新日本窒素肥料株式会社はチッソ株式会社に改称。 (通称 チッソ)	
昭和44年(1964年)	8月 チッソ付属病院閉鎖。	
昭和51年(1971年)	水俣湾へドロしゅんせつ工事着手。 平成2年(1990年)水俣湾へドロしゅんせつ工事完了。 エコパークとなる。	

朝鮮の日室

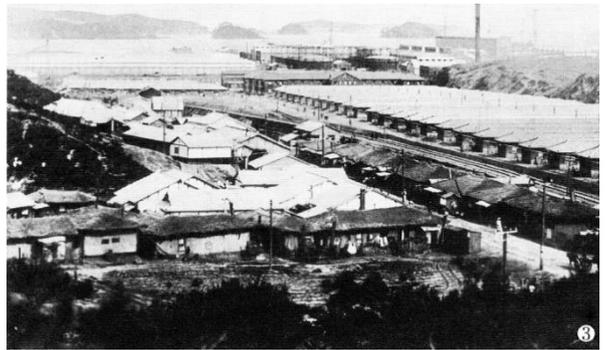


赴戦江発電所の建設 本巻の開書は、日本窒素肥料株式会社の手で、当時東洋一の規模となつた朝鮮赴戦江発電所がどのように建設されていったか、から始まる。

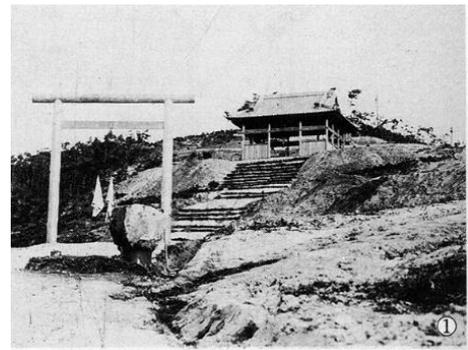
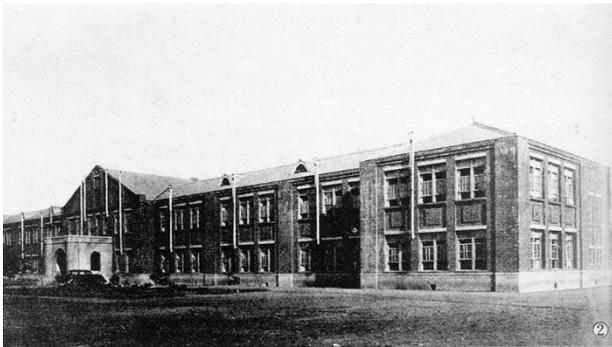
昭和初期 朝鮮赴戦江発電所



昭和初期 完成した日室朝鮮興南工場



朝鮮人住宅（左）の横に建つ日本人社宅



上-興南神社

左上-煉瓦建ての立派な興南小学校

左下-供給所 個人商店を全部合わせた以上の規模だった。

興南の町の主要な施設・建物は日本窒素により建てられた。日本の一企業である窒素は朝鮮に発電所や巨大な工場を作り、町のインフラまで整備していた。

昭和の水俣風景



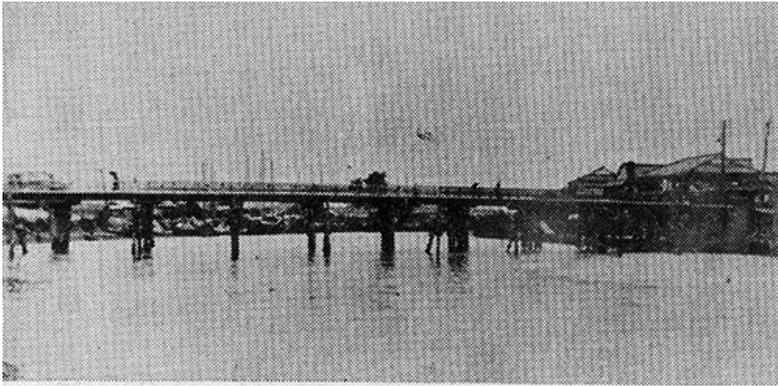
昭和初期 永代橋の端から河口方面に流れる古賀川。左側には梅崎製材所があった。このあたりは港となっていて、出船、入船で賑わっていた。



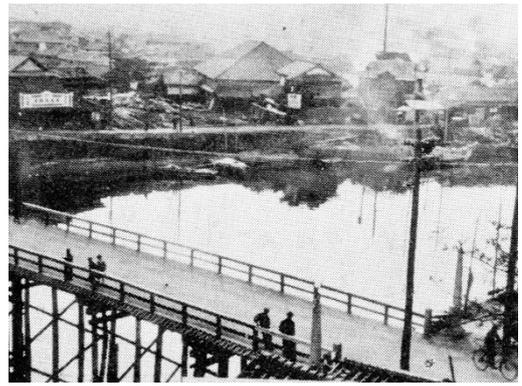
昭和元年12月 水光社の新店舗。

最初の店舗は工場内にあり、50坪ほどのバラック平屋だった。日室従業員の生活を守るため消費組合としてスタートした。

昭和の水俣風景



昭和初期 永代橋 右の建物は谷川旅館(現 谷川薬局)



昭和初期 永代橋 上の建物は梅崎製材所か。(現 M's シティ)

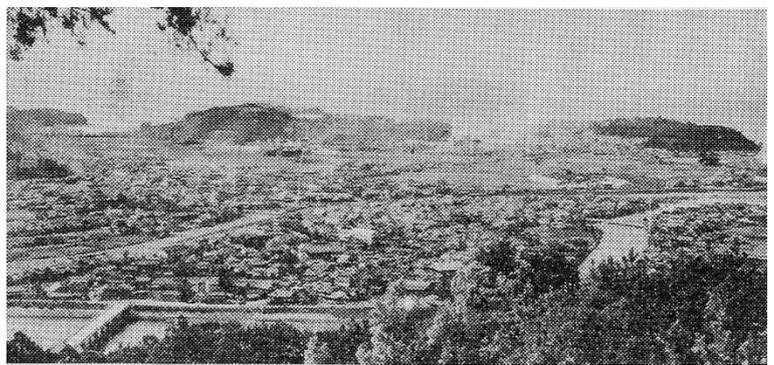


昭和5年ごろ、淇水文庫(現蘇峰記念館)屋上から見た浜町方面

昭和5年頃 水俣川にかかる水俣橋。(とんの橋)
右上の斜めの道は浜本通りから永代橋に向かう道。向こう側には丸島の丸山が見える。



昭和6年 日室工場



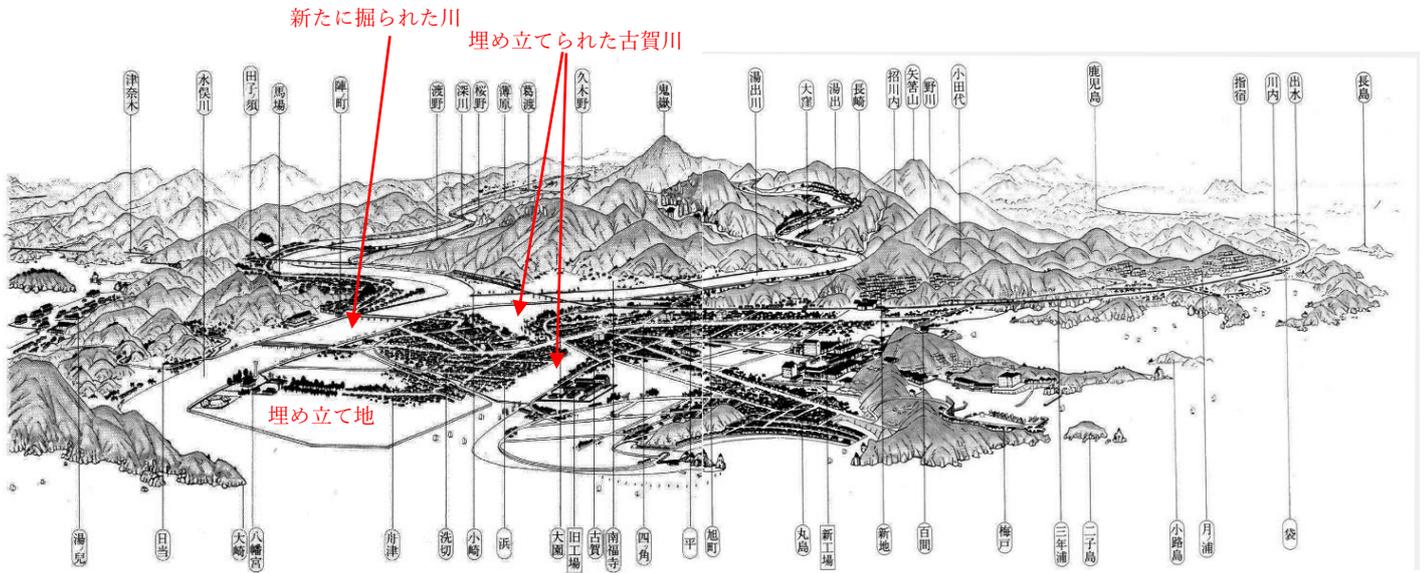
昭和初期 中州であった浜町 この地形のため頻繁に洪水に見舞われた



昭和初期 商店街。この先を右に曲がると大園の女郎屋街があった。



昭和8年 水俣川河川改修工事中の風景
小崎から河口方面を望む。
昭和7年から9年まで、洪水と失業対策として川の流れを変える大掛かりな河川改修工事が行われた。



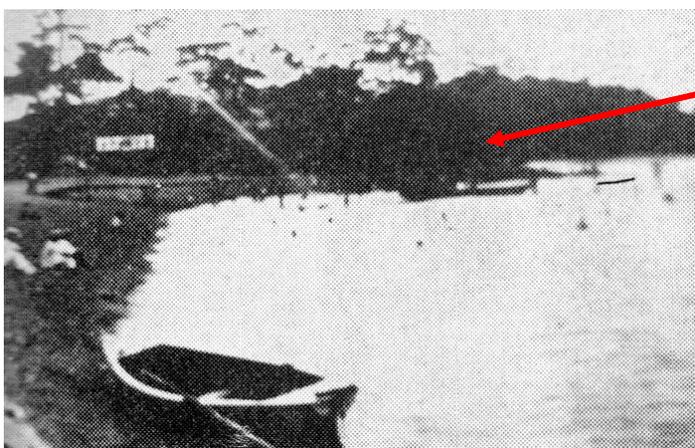
昭和9年 水俣川河川改修工事が終わった。上の鳥観図は昭和10年頃の様子。まだ埋めたたられた古賀川のあとも残っているのがわかる。



昭和10年 旭町通り(現在のスーパーホテルあたり)

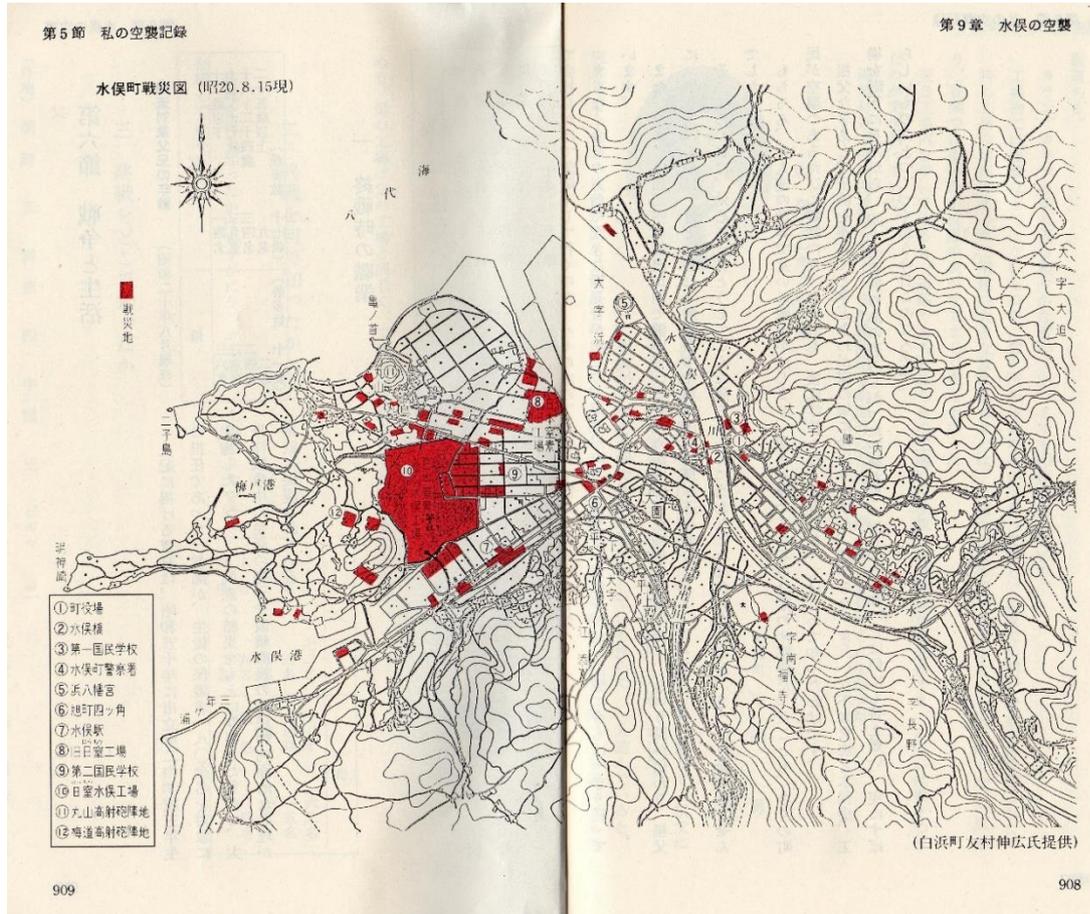


昭和12年 日室水俣工場全景



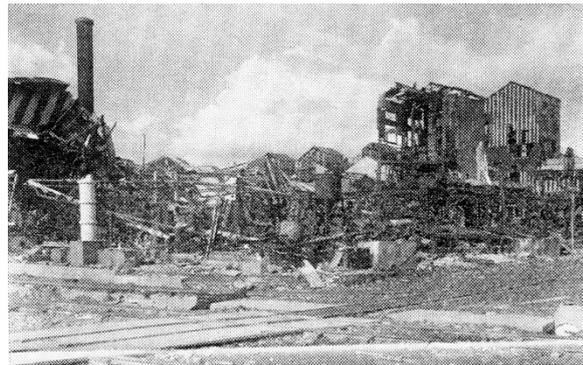
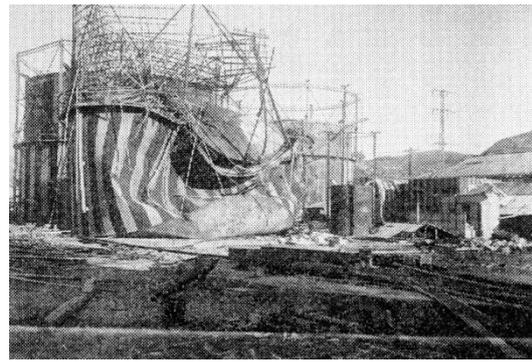
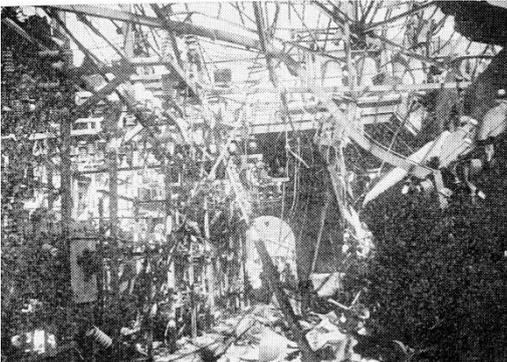
亀ノ首

昭和15年頃の亀ノ首海岸
 西南戦争ではここから官軍の増援部隊が上陸した。
 子供の頃は夏休みになると海水浴や潮干狩りによく行きマテ貝なども採れた。
 現在は埋め立てられて住宅地となっている。



昭和 20 年 8 月 15 日 日室と水俣の空襲のあと (赤色)

太平洋戦争中、日室は軍の指定工場で軍需物資も生産していたため、米軍の爆撃目標となり、昭和 20 年 3 月 29 日の空襲を最初として十数回の空襲を受けた。最も激しかったのは 5 月 14 日の空襲で、53 機が来襲し 100m か 200m の低空から爆弾と銃撃の雨を降らせ 9 人の死者が出た。7 月 31 日には工場倉庫に爆弾が落下し、日室従業員ら 26 人が爆風のため死亡した。相次ぐ空襲で工場は壊滅的な被害を受けた。日室以外の市街地も上の図のようにかなりの被害を受けた。しかし終戦から 2 か月後の 10 月 15 日から疎安 80 トンを日産し業界を驚かせた。



昭和 20 年 日室工場の空襲による被害

水光社と市立病院

水俣で生まれ育った人にとって、水光社は特別な存在の店だった。日室の工場内の購買部からスタートして生協となり従業員、市民が組合員となっていたため、自分の店という感覚だった。水俣のみならず、出水、阿久根にも当時はこんな大規模店はなく、水俣以外の地域からも買い物客が集まってきた。水俣の水光社に行くということは、都会のデパートに行くようなものだったらしい。今では水俣や出水にも量販店が多数できたため、水光社も過当競争に巻き込まれている。



昭和 24 年 水光社新店舗 4 月営業開始



昭和 25 年 水光社店内 生活協同組合となる



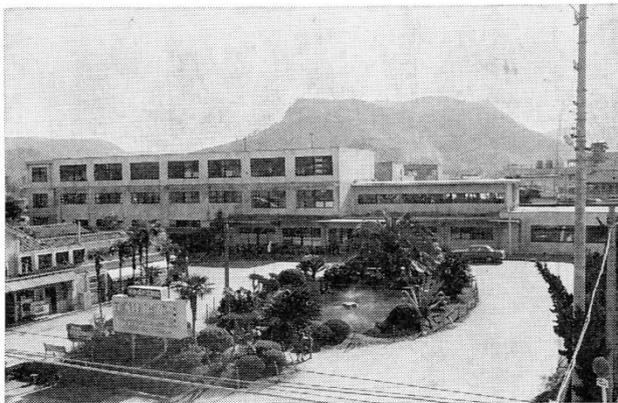
昭和 27 年 水光社 日本生活協同組合連合会へ加入
右側の写真の奥の建物は、米や野菜、炭などの売り場だった。子供の頃(昭和 30 年代)は正月の買い出しなどによく連れて行ってもらった。左にあるせんだんの木や、溝も見覚えがある。



昭和 32 年 3 月 2 階建てとなった水光社新店舗。屋上もできた。2 階の右側には食堂があり、水曜と土曜日は素うどんが 10 円だったので大人気だった。私も母と買い物ついでに時々食べた。当時外食などめったにしない私達にとって 10 円の素うどんがもの凄くおいしくて本当に御馳走だった。とろろ昆布とナルト、ネギだけだったが、そのにおいや味も蘇ってくる。



昭和 35 年 3 階建てとなった水光社



開設当時の市立病院

昭和 28 年 開設当時の水俣市立病院。日室の付属病院に代わって水俣の医療の中心となる総合病院となった。私も中学生のころからよく通院した。大人になってから 2 回入院し、50 年以上たった今も通院している。



市立病院全景 (航空写真)

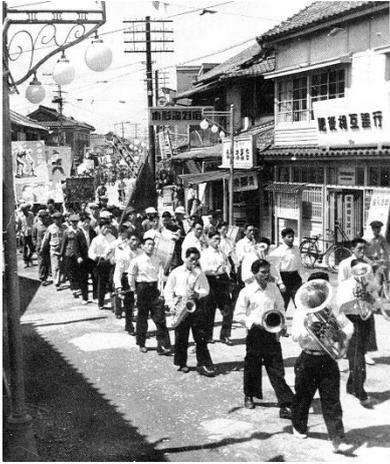
右上には旧体育館も見える

昭和 20 年～30 年代の水俣の町の風景

昭和 30 年代、私の父は新日窒労働組合の専従執行委員だった。そのため組合関係の書籍が多数あったので、その中から町の風景を集めた。



昭和 27 年メーデー 左の写真は 2 小の横の道。右は排水路と工場
右の写真は 2 小の校舎。壁に張り出した補強が特徴だった。私の母校だったので見覚えがあり懐かしい。



昭和 27 年メーデー 中央街
肥後相互銀行がある



昭和 30 年メーデー 2 小横の道
2 小の運動場が見える



昭和 30 年メーデー 原はきもの店前



昭和 31 年 労働金庫 現在の「ろうきん」



昭和 35 年メーデー 中央街
左の店は衣屋



昭和 35 年メーデー 場所は不明だが、チツ正門あたりか。水俣東映の看板がある



昭和 30 年代 私の父(右端)組合事務所にて



昭和 34 年 9 月 私の父(左から 2 人目)と太田薫氏(隣)



←昭和 35 年 6 月 安
保デモ。四つ角付近
肥前屋支店の看板が
見える。

→昭和 35 年メーデー 2 小校庭。
本校舎と右に新校舎
が見える。現在はす
べて建て替えられて
いる。



昭和 37 年～38 年 新日窒スト

昭和 37 年 7 月～昭和 38 年 1 月まで 183 日間に及ぶ新日窒労働組合のストが行われた。途中新労が出来て組合は分裂し、家族市民を巻き込んだ争議となった。



昭和 37 年 3 月 28 日 春闘第一波スト。この後部分ストが行われた。



正門前 昭和 37 年 7 月 23 日会社はロックアウト(組合員を工場に入れさせない)を通告。組合は無期限ストライキに突入。



昭和 37 年 支援に来た総評議長太田薫氏と戦術を練る。



昭和 37 年 各地にピケ小屋が建てられて組合員や家族などのスト拠点となった。



昭和 37 年 早期操業をするため新たに出て来た新労組合員(旧労からは御用組合と呼ばれた)の就労行動。



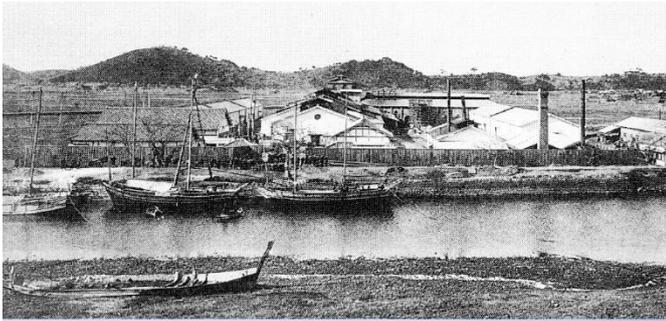
昭和 37 年 オルグ(支援)に来た三池炭鉱労組組合員。私の家にも 3~4 人一週間ぐらい宿泊した。後ろは水俣駅。



昭和 37 年 旧労組と新労組の小競り合い



昭和 38 年 1 月 スト妥結後の就労



日窒旧工場 上-明治41年 古賀川湖畔
下-令和元年 白梅の杜(元青果市場)の後ろに一部が現在も残っている



浜町本通り 上-大正9年 T型フォードもいる
下-令和元年 谷川薬局あたりから



↑永代橋 上-大正期 競舟(せりふね)見物 鈴なりの観客
下-令和元年 ここから六つ角交差点手前までの道路は永代橋だった



←永代橋付近 上-昭和初期 古賀方面を望む
上の建物は梅崎製材所か。高校時代の梅崎製材所ではアルバイトをした。
下-令和元年 現在は M's シティ(元寿屋)



旭町 上-昭和10年頃 ツダ写真館 赤星(靴屋)がある 右の真ん中は商工会議所か
下-現在の肥後銀行 スーパーホテル付近(この先の左側に水俣駅がある)

水俣出身及び水俣にゆかりの有名人

水俣は小さな町であるため、有名人がそれほどたくさんいる訳ではないが、私が思いつく範囲で水俣生まれや、水俣で活動した有名人を紹介する。

野口遵(のぐち したがう) 実業家(1873~1944)



金沢に生まれる。1896年帝大工科大学電気工学科を卒業。郡山電灯に技師長格で赴任。シーメンス東京支社に入った後、1903年に仙台で日本初のカーバイト製造事業を始めた。1906年には曾木電気を設立し鹿児島県大口に曾木発電所を作り、大口・牛尾金山に電力を供給。1907年には熊本県水俣村に日本カーバイト商會を設立しカーバイト製造を始める。1908年、曾木電気と日本カーバイト商會が合併し日本窒素肥料株式会社となった(新日窒→チッソ→JNC)。その後広島、出雲、五ヶ瀬、阿武川などに電力会社も設立した。1926年には朝鮮に水力発電所を作り朝鮮窒素肥料を設立。水俣のみならず、日本の電力、化学工業の発展に貢献した。

徳富蘇峰(とくとみ そほう) ジャーナリスト(1863~1957)



肥後国上益城郡杉堂村で熊本藩の郷士徳富一敬(号は淇水)の五子(長男)として生まれる。徳富家は葦北郡水俣村で惣庄屋と代官を兼ねる家柄であり、幼少期は8歳まで水俣で育った。その後熊本大江村に移り、四書、五経、史書などを読みあさり、1872年には熊本洋学校に入学した。1876年には上京し東京英語学校に入学。その後京都同志社英学校に転入し、洗礼を受け、言論で身を立てるとともに、神の王国の建設を目指した。同志社を中退した蘇峰は、1881年帰郷し自由党系の相愛者に参加し、自由民権運動に参加。1890年(明治23年)国民新聞社設立。明治、大正、昭和のオピニオンリーダーとして活躍した。現在水俣市役所横には「徳富蘇峰記念館」(旧淇水文庫)がある。水俣市浜町には「徳留蘇峰・蘆花生家」もあり一般公開されている。

徳富蘆花(とくとみ ろか) 小説家 (1868~1927)



肥後国芦北郡水俣村に徳富一敬(号は淇水)の三男として生まれる。徳富蘇峰は5歳上の兄。1878年10歳の時、同志社英学校に入学。2年後兄蘇峰の退学とともに退学し、父の設立した熊本共立学舎に入り、その後大江義塾に入る。この頃「八犬伝」「太平記」などの翻訳小説を愛読。1885年17歳でキリスト教の洗礼を受け、この頃から蘆花の号を用いる。1889年上京し民友社社員となる。その後兄の発刊した国民新聞に移り外国電報を翻訳したり、小説の翻訳なども行った。1897年逗子に転居。国民新聞に蘆花の代表作となる不如帰(ほととぎす)を連載する。その後いろいろな小説を執筆。国民主義的な傾向を強める兄蘇峰と次第に不仲となり、1903年には「告別の辞」を発表し、絶縁状態となる。明治を代表する小説家だった。

瀧上毛銭(ふちがみ もうせん) 詩人 (1915~1950)



水俣市に生まれる。本名・喬(たかし)。東京の青山学院中学部へ進学する。東京では詩人山之口獏の知恵を得てのちのちまで交流は続いた。脊椎カリエスを病んで、青山学院を中退し帰郷。寝たきり生活を余儀なくされる。病床で詩作を始め「九州文学」などに作品を発表。戦後1946年、水俣青年文化會議を組織するなど郷土の文化活動の発展に貢献した。代表作に「柱時計」「寝姿」など。ユーモラス、また一面スケールの大きい詩風と評される。1950年35歳の若さで死去。

直接面識はないが、同期生(または前後)に毛銭の息子がいたという話を友人から聞いたことがある。定かではない。



ユージン・スミス 写真家 (1918～1978)

アメリカカンザス州ウィタチ生まれ。スミスの父親は小麦商を営んでいたが、大恐慌で破産し、散弾銃で自殺している。第二次世界大戦中、サイパン、沖縄、硫黄島に戦争写真家としては派遣される。沖縄戦では日本軍の砲弾の爆風により全身を負傷し 2 年の療養生活を送りその後後遺症に悩まされる。戦後、大事件から一歩引き、日常に潜む人間性を「ライフ」誌でフォト・エッセイという形で取り組む。1961 年日立の PR 写真撮影のため来日。1970 年には美緒子と結婚し、ともに水俣病の取材を開始。1972 年 1 月、千葉県の上井市のチッソ子会社を訪れたとき多数派労組に囲まれ暴行を受け、カメラを破壊された上、脊椎を折られ、片目失明の負傷を負う。1972 年 6 月、「排水管からたれながされる死」を「ライフ」で発表。写真集「水俣」は代表作。



私の知人のアマチュアカメラマンは、ユージン・スミスが水俣の月浦の家に滞在中、しょっちゅう家に行き弟子のようにして写真を学んだらしい。2019 年、ジョニー・デップ主演で映画「Minamata」が製作されるが公開未定。



江口寿史(えぐち ひさし) まんが家 イラストレーター(1956～)

水俣市に生まれる。「七色仮面」「月光仮面」「鉄腕アトム」などの影響で小学校 3 年の頃からまんがを書き始める。1970 年 3 月、父の転勤で千葉県野田市に転居。1974 年大学入学試験に失敗して 1 年間の浪人生活を経て某デザイン学校に入学したが 1 か月しか通学せず、その後は学校に籍を置きつつ映画鑑賞と読書にふける。その後入院中にプロ漫画家になることを決意する。1977 年ヤングジャンプ賞入選作である『恐るべき子どもたち』で「少年ジャンプ」誌でデビューする。「すすめ！！パイレーツ」「ひのまる劇場」の連載のあと 1981 年より自身最大のヒット作となる「ストップひばりくん」の連載を開始する。これは男の子でありながら見た目は女の子のようなひばりくんが、男の子の友人と疑似恋愛的な物語りを繰り広げるコメディだった。現在はイラストレーターとして活動していて、水俣の観光ポスターには彼の描くかわいい女性のイラストが使われている。



もう 40 年前だが、私も少年ジャンプでよく読んでいた。7 つ下の私の弟と水俣第二小学校の同級生だったらしい。



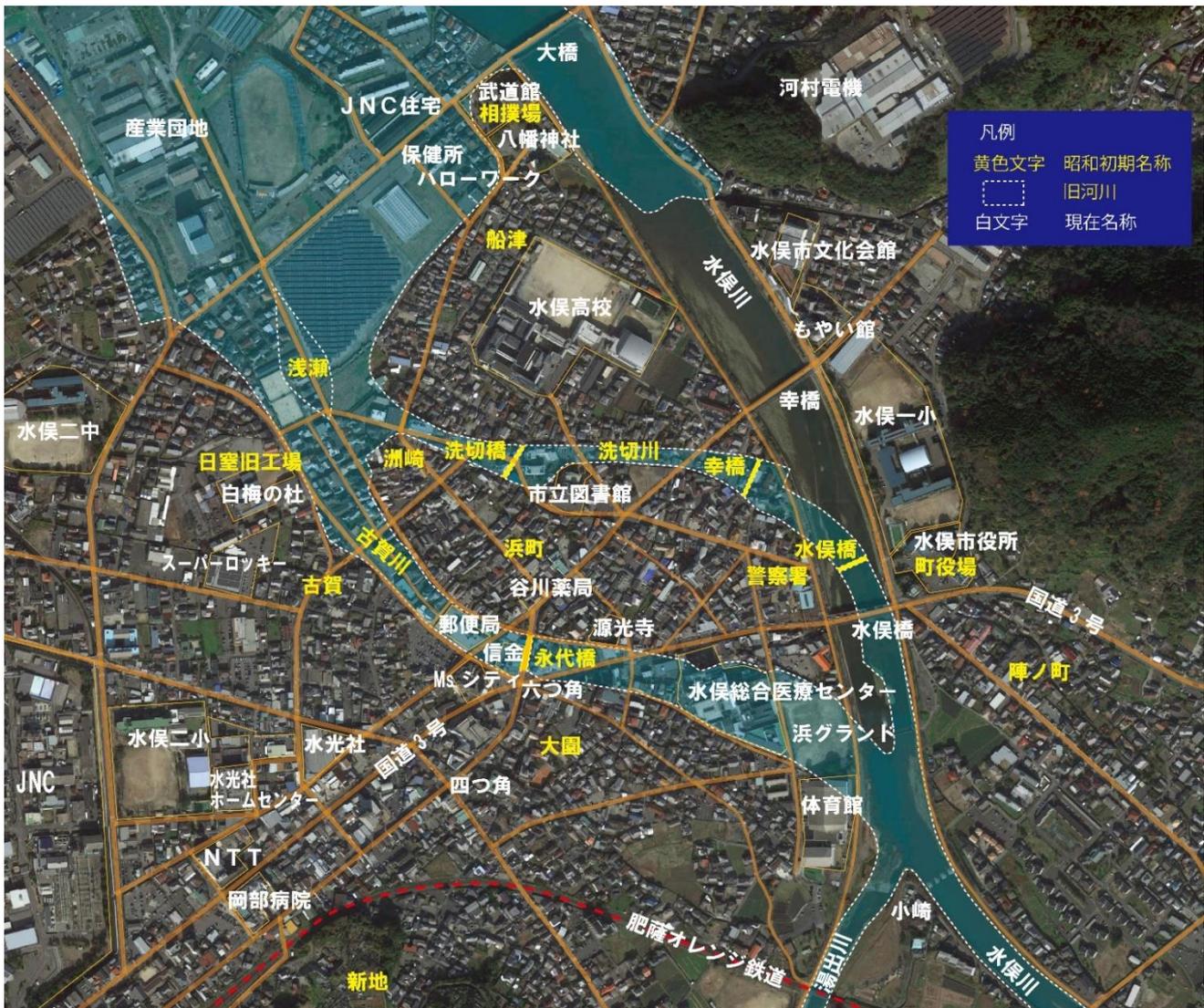
村下孝蔵(むらした こうぞう) シンガーソングライター(1953～1999)

水俣市浜町仲之町通りで映画館(村下興業社)の三男として生まれる。最盛期は水俣周辺に 7 軒の映画館を経営していた。幼い頃は映画館の一番前の席で映画を見たりラジオで歌謡曲を聞いたりして過ごす無口な子供だった。1959 年、父親が隣の鹿児島県出水市に新しい映画館(泉映)を建てると出水に移り住んだ(出水小学校に通う)。1 年後水俣に戻る。ロカビリーに夢中になってエレキギターに興味を持つようになる。また寺内タケシ、ベンチャーズ、エレキの若大将に夢中になり、ギターを自作してギターを弾き始める。中学は第一中学校だったが、ヒット曲「初恋」はこの学校での初恋体験をもとにしたもの。高校は熊本県の鎮西に進むが、1967 年映画館の業績悪化で父は映画館を廃業する。高校卒業後は八幡製鉄所に就職するが、その後父親が転居していた広島に移り、1980 年 27 歳で「月あかり」でプロデビュー。「春雨」「ゆうこ」「初恋」「踊り子」などたくさんのヒット曲を出す。ギターもかなりの腕前で、YouTube では一人ベンチャーズなどのすごい演奏の映像が残っている。



私が高校生の頃、村下孝蔵の父親が経営する「日活東宝」という映画館(その後太陽館となり現在は第二山下ビル)で加山雄三の若大将シリーズや、東宝のゴジラ、モスラ、植木等のサラリーマンシリーズなどの映画を良く見に行った。この頃は中学生時代の村下孝蔵もいたかもしれない。同じ水俣出身ということで、私は村下孝蔵の曲はかなり好きで、今でもよくカラオケや弾き語りでも歌っている。水俣の M's シティという量販店の裏口には「初恋」の歌碑が建てられていて、この通りは「初恋通り」と呼ばれている。46 歳という若さで亡くなったことが残念でならない。

昭和初期の水俣の河川と現在(令和元年)



水俣 現在の市街地と旧河川敷

凡例 昭和7年頃まで
 海岸線
 主な道路
 施設
 町
 名称 地名は赤字で表示

凡例 現在
 民間施設
 公共施設
 名称地名は黒字で表示

日本窒素旧工場
 明治41年頃に大口曾木発電所から電気をひいて作られた

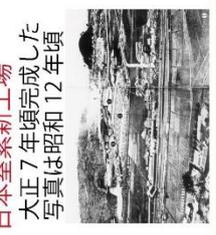


三本松
 町中からも見える大きな三本の松があり、地名も三本松とよばれていた

亀ノ首海岸
 亀ノ首と呼ばれる小さな岬がありその横は海水浴や潮干狩りができる海岸があった



日本窒素新工場
 大正7年頃完成した写真は昭和12年頃

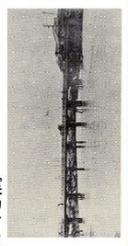


中ん川原 (こら)
 河口には浅瀬があり、消防点検や、競馬、サーカスなどが行われた

水俣橋 (とんの橋)
 昭和5年頃の水俣橋丸山方面を望む



永代橋
 水俣の中心街であった浜町と大園をつなぐ古賀川にかかっていた橋



日本窒素付属病院



水俣 旧河川敷 昭和7年頃

凡例 昭和7年頃まで
 海岸線
 主な道路
 施設
 町
 名称 地名は赤字で表示

日本窒素旧工場
 明治41年頃に大口曾木発電所から電気をひいて作られた



三本松
 町中からも見える大きな三本の松があり、地名も三本松とよばれていた



亀ノ首海岸
 亀ノ首と呼ばれる小さな岬がありその横は海水浴や潮干狩りができる海岸があった



日本窒素新工場
 大正7年頃完成した写真は昭和12年頃

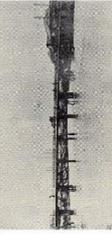


中ん川原 (こら)
 河口には浅瀬があり、消防点検や、鷺馬、サーカスなどが行われた

水俣橋 (とんの橋)
 昭和5年頃の水俣橋丸山方面を望む



永代橋
 水俣の中心街であった浜町と大園をつなぐ古川にかかっていた橋



日本窒素付属病院